

平成30年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞
 総務大臣賞受賞

まちづくり×学校×関係人口で 1000人の村の幸福論を考える

島根県出雲市 伊野地区自治協会

伊野地区自治協会会長 多久和 祥司

地域社会の縮小が避けられない現実と向き合うとき、私たちはどんな視点で将来のコミュニティを構想したらいいのだろう。

コミュニティが小さくなっても、そこに人の幸せが成り立つことが大事だと思いが、幸せのモノサシは人それぞれ。

私たちは小さな取り組みを積み重ねながら、考える人や行動する人を増やすことに力を注いできた。そして今、やっと幸せのモノサシについて話し合いができるところまでたどり着いた。

地域の概要

島根半島の中ほどにあり、南は宍道

湖、北は日本海に面する伊野地区は、人口1300人弱の中山間地域。10年後には1000人になると推計されている。

2012年、出雲市から当地区の伊野小学校と隣接する二つの小学校の統合案が示されたが、2年余にわたる議論の末、存続させることを決定した。統合を望む意見も多くある中で、苦渋の決断だったので、存続して良かったと思える学校づくり・持続可能なコミュニティをめざして、自治協会・コミュニティセンター・学校連携による地域を挙げた取り組みが始まった。その特徴は、「まちづくりと学校をつなげた教育の魅力化」「全員参加のまちづくり」「地域外の人びととの

協働によるまちづくり」である。

まちづくり×学校で「子育てするなら伊野で」

1. 小学生参加の産地直売所「伊野いち」小学生がかいがいしく動き回る光景を見て、お客様は驚く。危機的な局面を迎えている当地区の農業に希望を見いだそうと、2014年に始めた産直市「伊野いち」（年2回開催）では小学5・6年生が宣伝や販売など重要な役割を担う。まちづくりの現場に出て、現地の空気や人びとの声を感じながら伊野の将来を考える学習だ。当日は自分たちが栽培したサ





お客様の前で「伊野いちの歌」を披露する伊野小児童

ツマイモの販売に加え、おもてなしコーナーでお客様接待、お客様の荷物運び、商品紹介など、スタッフとして働く。
 昨年、先生と子どもたちは学習のまとめとして「伊野いちの歌」と「ふるさと伊野」の歌をつくり、今年、お客様の前でライブコンサートを行って披露した。子どもたちの活動は私たちに元氣と希望を与えてくれている。集客力の増加にも貢献している。

2. 町の幸福論を考える小学生

伊野いちで学んだ6年生は、3学期、国語教科書に載っている「町の幸福論」

(著者・山崎亮)を学習し、「伊野の将来

デザイン」を考えて地域住民の前で具体的な取り組みを提案する。子どもたちの提案はできるだけ実現するように支援している。昨年は、「情報発信が弱いのでフリーペーパーをつくってはどうか」という提案をした女子児童を中心に6年生全員(5人)が、伊野を紹介するフリーペーパーを完成させた。男子児童の「伊野の良さを知らするためのオリエンタリング」という提案は、今年度、里山を舞台にしたクイズラリーで実現した。こうした事業の積み重ねで、まちづくりに参画する小・中・高・大学生が増えてきた。

3. 国際ワークキャンプ

小さな学校・小さな地域だが、世界が見える大きな人間に育ってほしい、文化的な背景が異なる人びとが互いを尊重し持ち味を発揮できるコミュニケーションをつくりたい。そのような願いを込めて、外国人青年や日本人学生を招いて、里山整備や地域住民との交流などを行う国際ワークキャンプを2016年から始めた。昨年は、伊野小学校の宿泊研修とのコラボが実現し、子どもたちと交流を深めた。また、ホームステイ等を通して地域住民

との交流も深まっている。

まちづくり×関係人口(伊野の応援団)で活動の輪を広げる

1. 伊野ふるさと会員(伊野のまちづくりサポーター)

まちづくりに関わる人は年々増えてきたが、地区住民だけでは手に負えない部分も多い。昨年、伊野地区出身者や伊野のまちづくりに関心を寄せる人びとに1口5千円の寄付で「ふるさと会員」になってもらい、伊野のまちづくりと一緒に考えてもらおうと呼びかけたところ



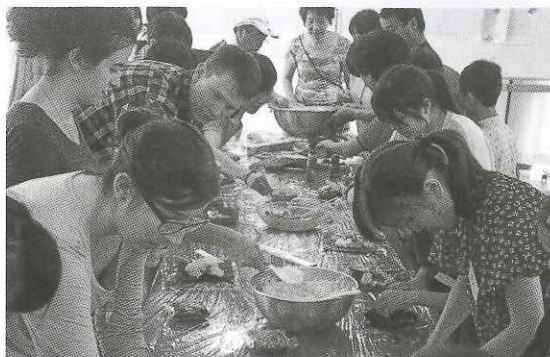
地域住民の前で伊野の将来デザインを発表

2. 伊野バージョン—ワクワク・ドキドキ、伊野の自然を舞台に遊ぶ—
 鳥根大学教育学部の学生と地域住民が一緒になって「伊野の自然を舞台に子ど

ろ、1年間で108人の皆さまから75万円のご厚志が寄せられた。ご厚志のおかげで「町の幸福論」著者の山崎亮氏の出前授業と講演が実現した。
 また、少人数のため割高になる修学旅行経費を助成することもできるようになった。
 今年度は、会員同士や会員と住民との交流事業を実施する予定だ。



伊野の将来デザインを考えるワークショップ



国際ワークキャンプ—里山ハイキングのランチ作り—



伊野バージョン—田んぼでどろんこ運動会—



伊野バージョン—秘密基地づくり—

もの遊びを創る」をコンセプトに、森で秘密基地づくり、田んぼでどろんこ運動会、海でいかだレースなど、自然を舞台にした遊びを通して心と体を開放する活動が2013年から始まった。子どもたちが外遊びする光景がめっきり増え、「伊野いち」とともに「伊野バージョン」は、伊野の代名詞となった。

「町の幸福論」を考えるまちづくりトーク—コミュニティの持続可能性に挑む—

まちづくりを「わがこと」と感じ、「町

の幸福論」を考えてもらおうと、昨年、「10年後の伊野を考える」動画を作成した。この動画をすべての集落で上映し、10年後の伊野を考える「まちづくりトーク」を展開中である。「町内の草刈など、これまでやってきた活動を続けることに各世帯は耐えきれない」など深刻な意見が噴出しているが、地域の地温が上がり新しい芽が吹き出す予兆と捉えている。
 今後、1年間かけて伊野の将来デザインを作成することになっている。人びとの声をつなげる、それぞれが身の丈に応じた関わり方を考えるなど、地道な作業の積み重ねが成否の鍵だろう。